

令和3年度第4回 富秋中学校区等まちづくり検討会議 議事概要

1. 日 時：令和3年12月27日（月）19：00～

2. 場所：和泉市 人権文化センター 大会議室

3. 出席者：委員 19名
和泉市職員 17名
コンサルタント 5名

4. 議事次第

- (1) ここまでと今後の検討の進め方について
- (2) 各プロジェクトの状況について【(仮称)多世代交流拠点施設】
- (3) 各プロジェクトの状況について【学校】
- (4) その他

5. 議事概要

※以下、特記無き場合委員の発言

■今後の検討の進め方について

○市浦より資料説明 資料【ここまでと今後の検討の進め方について】

■各プロジェクトの状況について【(仮称)多世代交流拠点施設】

○市浦より資料説明 資料【利用者アンケート】

- ・特に意見はなかった。

■各プロジェクトの状況について【学校】

○教育総務課より資料説明 資料【校名募集についての報告】

○坂倉建築研究所より資料説明 資料【学校についての報告…第3回開校準備委員会】

【施設一体型義務教育学校の基本計画（素案）】

○教育総務課より資料説明 資料【通学路の安全対策検討について】

- ・学校の中身づくりについては、いつどこで検討するのか。教育の中身によって建物も変わると考えている。例えば、現在の富秋中学校の障がい者向けの支援教室は教職員との話し合いの中で、バリアフリーの設備も含めて設置することになった経緯がある。具体的な教育の中身については、現場をよく知る教職員と意見を交わす中で、子どもたちがいきいきと過ごすためにどうするか考えるべきだと思うが、そうした検討をした上で今後計画を変更する余地があるのか。検討会議の場が、単に決まったことを連絡・報告する場となっていると感じる。学力のことなど、富秋中学校に対する偏見はまだ残

っているように感じるが、そうした偏見に対して現場の先生が一番悩み取り組む中で色々な問題を抱えている。富仲祭を今後どうするか、講堂をどうすべきか等は教職員の意見も踏まえて今後検討すべきことだと思う。今の計画では、普通の体育館、講堂を整備するようにしか見えない。検討会議の場で意見交換した内容をふまえ、ハード面含めて変更していく可能性を持って考えていただきたい。

⇒教職員の意見を反映すべきという意見については、仰る通りである。最終的な教育内容は学校長が決めることとなるが、今回の基本計画策定における、例えば施設整備のコンセプトなどの内容は、教育内容にも影響を与えることになると思うので、今後検討していきたい。(市)

・「方針7 からだとところに優しい学校(ユニバーサルデザイン)」を掲げていて、言葉としては耳に心地よい感じがするが、本当にノーマライゼーションの考え方に基づいた基本計画となっているのか疑問。例えば障がい者の支援教室を具体的にどこに設置するのか等の内容が一切ないが、記載があるのであればどこにあるのか教えてほしい。また、小中一貫校の9年制で考えた時に、(小学生と中学生を)どこで分けた方がよいか、現場の先生が悩むところだと思うが、そこがなおざりにされている計画のように感じた。言葉としては書いてあっても計画に反映されていないように見えるので、このまま進めて良いものか疑問である。

またP.41、「廊下での身体的接触などをできるだけ避けるよう工夫する」という記載についても気になっている。確かに小学校低学年と中学生の年代は体格差があると思うが、子どもたちにとって最初から身体的接触を避ける工夫を講じることが果たしてよいのか。身体的接触があるとどうなるのか、そうならないようにどうすれば良いのかを子どもたちに教えることが、年代の異なる子どもたちのいる9年制であることの意味ではないのか。

⇒支援学級の細かな位置については、現段階ではあくまで基本計画策定のため、示していないが、教室数のところに記載しているとおり、支援学級は7教室、シャワールームは1教室を想定している。これは現状の幸・池上・富秋の支援学級に通う生徒数を加味して検討している。(市)

⇒身体的接触については、当然子供たちに考えてもらいたい内容であり、ソフト面の配慮も必要だと思うが、事故防止につながるような教室配置等、ハード面での配慮も一定必要と考えている。(市)

・通学路については、多くの保護者の関心あるところだが、阪和線を越える歩道橋整備は目指してほしいと感じている。自分の子どもも現在の富秋中学校に通学しているが、和泉第一団地の踏切前は通学途中で事故が起きているということを見聞きしているので、新しい学校に子どもを登校させることを考えると、しっかり対策してほしいと感じる。南松尾はつがの学園では通学バスを走らせる対策を講じていて、今回の富秋中学校では通学バスの導入は難しいと聞いているものの、通学路の安全確保の対策(安全員配置等)は地域だけでは限界がある。幸小学校区から通う子どもだけでなく、池上小学校区から通う子ども、葛の葉町から通う子どもの目線でも考えて安全な通学路対策を検討してほしい。その対策について議論する場合は、庁内の「和泉市通学路等交通対策推進連絡会」と聞いたが、地元で考える場・意見する場も必要ではないか。

また、テニスコートについて、10年後そこまで需要があるかどうか疑問。一つの用途での使用ではなく、多用途で使えることを想定して作った方がよいのではないか。また、スケボーやグラウンドゴルフも出来るようにすると、地域開放にも使えるのではないか。

- 通学路については学校を通じて意見するということが、新しい学校がまだない中でどこから意見を出すのか。検討会議や準備委員会で地元から意見を出して庁内で反映する仕組みにならないのか。

⇒「和泉市通学路等交通対策推進連絡会」は年3回開催しており、1回目は問題点についてどの部署が検討するかを割り振り、2回目で進捗状況について共有、対策について、今年度行うもの、来年度行うものに整理し、3回目でとりまとめを行う。基本は学校を通じて意見をもらうが、当然地域から要望が上がってくることもあると認識しており、地域から出された意見についても学校に確認して会議の議題としてあげる想定をしている。まずは富秋中学校へ通う際の通学路を設定し、危険箇所をピックアップしたものを開校準備委員会の中で示すことになると思うが、地域からほかにも対策が必要なところについて意見をもらいながら、開校に向けて準備をしたいと考えている。(市)

- コンセプトには「人権」というキーワードが入っているが、基本方針にも入れてもらいたい。方針2の内容などに盛り込まれているようにも見えるが、やはり富秋中学校＝人権学習ということは大事にしてほしい。富秋中学校で人権学習が行われているから、子どもたちの差別発言が少ないと感じている。

- コンセプトに「人権」というキーワードを入れることはお願いしたい。基本計画はハード面の話ではあるが、現富秋中学校整備の中でも考えてきたように、支援学級をどうするか、スロープなどのバリアフリー設備、学校になじめない子への特進学級などの整備検討も必要である。人権そのものを教えるとともに、子どもたちの人権意識を育む必要があるので、人権意識を高める学校づくり、という内容を入れてもらえれば。例えばスロープを使う身体障害者の子どもを他の子どもたちが助けることで、支え合いの意識を身に着けることや、外国にルーツを持つ子どもの学びもこれまで行ってきたので、そうした内容も組み込めればと思う。

⇒基本方針へ「人権」というキーワードを盛り込むことについては今後検討させていただきたい。(市)

- また基本計画策定後、業者から設計図面が出てきたときに、設計図面について検討委員会でも議論できるのかどうか気になる。令和9年度開校予定として進めているが、議論が必要なのであれば開校時期を遅らせることも考えるべきではないか。予定ありきではなく、議論すべきところは議論した方がよいと思っている。

⇒いつまでに新しい学校を開校するかについて、確かに議論する必要があることは議論するべきだが、どこかで期限を設けないといけない。現時点のものはたたき台として示しているため、今後具体的な内容やゾーニングについては地域からも意見をいただきながら検討していきたい。(市)

- 例えば地域の要望である歩道橋整備について、すぐに出来ないと結論づけるのではなく、前向きに検討していただきたい。新しい学校の開校が、令和9年度に間に合わなくても、地域としての要望は意見していきたいと思っているので、通学路の安全対策については今後も考えていきたい。

○次回の検討会議は、1月の開催を予定している。市営住宅の店舗、跡地活用に関して意見交換する予定である。

以上